

学校教育評価表（小・中学校）

学校名 大津市立 田上中 学校

評価の基準（3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった）

項目	評価の観点	自己評価 (3・2・1・0)	学校関係者評価 (3・2・1・0)	関連するSDGsの 目標(参考)	
主体的・対話的で深い学び	1 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	3	3		
	2 協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(ICTの活用含む)	3			
	3 主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の実施	3			
道徳教育の充実	4 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	3	3		
	5 ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	3			
	6 保護者等への道徳科の授業公開	3			
体力づくり	7 たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	3	2		
	8 体力づくりを推進する運動実践	2			
	9 生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2			
指導改善 (組織的・計画的)	10 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	3	3		
	11 教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	3			
	12 働き方改革の取組と教育活動の質の改善	3			
育ちと学びを支える 連 携	① 家庭・地域との 連携・協働	13 子育てや家庭教育に対する 保護者への積極的な支援	3	3	
		14 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	3		
		15 防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	3		
	② 保幼小中の 連 携	16 子どもの校種間交流や教員の出前授業	3	3	
		17 校種間の授業公開や合同研修会	3		
		18 保幼小中の接続期の教育課程編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究	3		
組織的体制の 充 実	① 生徒指導体制の 充 実	19 いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	3	3	
		20 生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	3		
		21 家庭・地域・関係機関との連携による指導	3		
	② 特別支援教育の 充 実	22 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2	3	
		23 組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	3		
		24 関係機関と連携した相談体制の充実	3		
学校満足度	25 児童生徒の学校満足度	3	3		

※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと

※	児童生徒アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.68
※	保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.71

* 各校の学校評価書から上記の1~25の観点にかかる自己評価および学校関係者評価結果を取り出し、本表に移記ください。
* 評価の項目と関連があると考えられるSDGsの目標を参考として表示しています。

令和7年度 大津市立田上中学校 学校評価書

評価の基準 (3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった)

項目	評価の観点	自己評価 (0-3)	学校関係者評価 (0-3)	R7自己評価に関する考察 ○成果 ▼課題	学校関係者のご意見 ◇評価 ◆改善・期待	R7今後の展望(見通し)◎
主体的・対話的で深い学び	1 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	3	3	○「田上中学びのスタイル」を踏まえた小グループによる学び合い活動により、支持的風土を醸成することができた。 ○田人教の集団作り部会と連携し、語り場や学級会をすすめることができた。 ○学級での発表会や学び合い学習を通して、自分の考えを伝えたり友達のを聴いたりする場を充実させ、協働して課題を解決する授業をすすめることができた。 ○滋賀県総合教育センターの研修指導主事を招聘し、授業研究会を2回もつことができた。 ○体験的な学びを多く取り入れることで、主体性・協働性・自己効力感等を総合的に育てることができた。 ▼学級会の形式とそれに向けた準備などが不十分であった。 ▼家庭における学習習慣を確立させるために、e-ラーニングの活用等をすすめてきたが、日常の学習習慣の確立するには至らなかった。 ▼朝読書の時間を十分に確保することができなかった。授業の中では、国語科を中心として、学校図書館を活用した。		◎上級生が下級生のモデルとなる機会を体系化し、下級生が憧れと安全な挑戦を得ることを重点的な目的として、(仮称)学びの時間を創設する。 ◎学級会についての研修を検討する。
	2 協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(ICTの活用含む)	3				
	3 主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会の実施	3				
道徳教育の充実	4 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳実践力を育てる活動の実施	3	3	○STOPいじめ小中集会や防災学習を柱とした命や人権についての学習を通して、生命を尊重する心やいじめを許さない態度を育んだ。 ○複数の教員が授業をし、生徒の学びを記録することで、評価の妥当性を高めることができた。 ○全職員が道徳の授業を検討することで、道徳的価値の共有ができ、日ごろの指導に活かすことができた。 ○パワーポイントを使って授業の流れを作ることで、生徒に見通しをもたせることができた。 ○滋賀教育の日の関連事業として土曜参観日を設定し、保護者に道徳科の授業を公開した。 ▼教科の授業に比べて、視覚的支援が十分にできなかった。		◎講師を招聘した道徳科の授業について研修の機会を設ける。振り返りについては、積極的にICTを活用していく。 ◎複数の教員による道徳科の授業は継続していく。 ◎滋賀教育の日に向けてのみではなく、学年で道徳教材を作成する機会を設けたい。 ◎支援級道徳については、在り方を再考する。
	5 ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	3				
	6 保護者等への道徳科の授業公開	3				
体力づくり	7 たくまいい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	3	2	○生徒が保健体育の授業や部活動に前向きに取り組むことができた。 ○生徒が体育祭に積極的に取り組めるように工夫することができた。 ▼熱中症対策など保健体育や部活動の取組に制限がかかる状況はあるが、授業や体育祭など様々な活動の場面で運動のよさを感じさせる工夫をすることが課題である。		◎部活動ができる日を可能な限り確保する。 ◎授業や体育祭、部活動等の活動において、運動のよさを感じさせる手立てを考え、実践する。
	8 体力づくりを推進する運動実践	2				
	9 生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2				
指導改善(組織的・計画的)	10 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	3	3	○校内研究会(研究授業の参観および協議会)において「本時のねらいを達成するための学習課題の設定」「子ども同士の発言をつなぎ、学びを深める手立てやポイント」について、その成果と課題を考えることで、生徒が主体的に学び、「再構築」できる授業を目指して指導改善に努めた。 ○年2回の学び合いウィーク(相互授業参観)を設定し、授業参観後のフィードバックを通して授業力の向上に努めた。 ▼「どの子にもわかりやすい授業の実践」「多様な教育的ニーズのある子どもの実態把握」「合理的配慮とその基礎となる環境整備」などについては、学校としての指導力を高めていくことが課題である。		◎ユニバーサルデザインの授業づくり・環境づくり・人的環境づくりについての理解を深め、共通実践に取り組む。
	11 教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	3				
	12 働き方改革の取組と教育活動の質の改善	3				

令和7年度 大津市立田上中学校 学校評価書

評価の基準 (3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった)

項目	評価の観点	自己評価 (0-2-10)	学校関係者評価 (0-2-10)	R7自己評価に関する考察 ○成果 ▼課題	学校関係者のご意見 ◇評価 ◆改善・期待	R7今後の展望(見通し)◎
育ちと学びを支える連携						
① 家庭・地域との連携・協働	13 子育てや家庭教育に対する 保護者への積極的な支援	3	3	○授業参観日を設定し、保護者に生徒の活動の様子を見てもらうことができた。 ○地域ボランティア等、地域に子どもたちが出向き、地域の役に立ったり地域の方と交流したりする場を多く設けた。 ○家庭科の授業等で地域の人材を活用したことで、地域に関心を持ち、地域への愛着を深めることができた。 ○防災教育を推進し、生徒にとって安全な場所となるような学校づくりに努めた。 ▼校内のボランティア活動には多くの生徒が参加したが、地域ボランティアに参加する生徒は固定化する傾向がみられた。	◇フォトコンテストは田上の中でも普段行かない場所を訪れたりして、地域を知ることにつながっている。ぜひ来年度も取組として継続してほしい。 ◇保護者として、学校が子どものトラブル等について丁寧に寄り添い対応してくださる姿勢に、大変感謝している。 ◇家庭科の「関津キャベツ」の調理実習は、地域の方がボランティアとして参加してくださった大変素晴らしい授業であった。私たち地域住民が、学校のために、というような気持ちをもたなければならぬと感じた。 ◆ボランティア活動等を通して、情操教育に力を入れていただけたらと思う。	◎さらに多くの生徒が地域の行事や活動に進んで参加できるように、生徒会執行部の生徒と連携した発信方法を考案する。 ◎地域人材を活用した授業等をさらに進めていく。
	14 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	3				
	15 防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	3				
② 保幼小中の連携	16 子ども校種間交流や教員の出前授業	3	3	○小学校6年児童の部活動見学・小中STOPいじめ集会・教員の出前授業・生徒会執行部生徒の入学説明会等を通して、児童生徒間の交流や児童の円滑な中学校への入学準備をすすめた。 ○月1回生徒指導に係る小中連携会議を開催し、児童生徒の様子との交流を通して、学区共通の課題を見出したり、小中で連携した支援につなげたりした。 ○小学校と連携し、入学前に児童と保護者との面談を行い、中学校生活を順調にスタートさせるように努めた。 ▼生徒指導面における連携は十分に行えたものの、教育課程や授業での連携はまだ十分にはできていない。	◇田上学区は大変よく連携できている。 ◇今年度から連携会議の会場が持ち回りとなり、しっかり参観した上で情報共有を行っている。	◎田人教や生きぬく力の礎み事業等を活用し、学区の子どもたちが抱える共通課題に解決するための授業交流や合同研修会をさらに進める。
	17 校種間の授業公開や合同研修会	3				
	18 保幼小中の接続期の教育課程編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究	3				
組織的体制の充実						
① 生徒指導体制の充実	19 いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	3	3	○休み時間の見守りや声かけを徹底することができた。 ○こころの健康観察・学校生活アンケート・朝の声かけ等を通して、生徒の変化を即座にキャッチし、早期対応につなげた。 ○生徒指導事案が起こった場合は、即座に対策委員会を開催し方針を確認するとともに、記録をしっかりと日報等に残すことで、全教職員で共有する体制を確立した。 ○服装、SNSに関する外部講師による講座を開催し、生徒に望ましい姿について考えさせることができた。 ○校則の見直しを通して、生徒の自己調整力が高められるように参画の場を設けた。 ▼校則に関わる指導や進路指導については、教職員の共通理解を徹底する必要がある。		◎校則の見直しのための持続可能な体制づくりを進めていく。 ◎生徒指導に関する研修会を開催し、教員一人ひとりが生徒指導力を高めていく。
	20 生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	3				
	21 家庭・地域・関係機関との連携による指導	3				
② 特別支援教育の充実	22 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2	3	○支援員さんと話す場を設け、支援計画に反映することができた。 ○必要に応じて校内ケース会議を開くなど、組織的に対応した。 ○通級指導者と担任との対話の場を設け、対象生徒や通級のあり方について情報を共有できた。 ○教職員全体の意識が合理的支援を含め、支援の仕方についての理解が進んできた。 ○SCや関係機関の助言を積極的に受け、積極的に連携する体制ができてきた。 ○個別指導計画の面談が昨年より計画的に早く実施できた。また、複数で対応できた事例も多く見られた。 ○小中支援学級担任者会議を開き、情報共有ができた。 ▼支援計画の方向性や目標は共有できているが、具体的な手立ての共有が不十分であった。 ▼個別の支援計画の引継ぎが不十分な点があった。		○適切な支援を行うために特支コーディネータと支援員が連絡を密にするとともに、授業者から支援員に必要な支援内容を具体的に伝える。 ○教育支援センターの巡回相談などをさらに活用して相談や研修を行う。 ○個別の支援(指導)計画の作成・面談の進捗状況を学校全体で共有する。
	23 組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	3				
	24 関係機関と連携した相談体制の充実	3				
※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させ						
学校満足度	25 児童生徒の学校満足度	3	3	○「学校は楽しいですか」の問いに対して、「あてはまる」と肯定的な回答をした生徒は約84%で、昨年度より約4%増加した。 ○生徒及び保護者アンケート評価の平均値が向上したのは、生徒が学校生活を楽しく過ごしており、保護者が学校の教育活動を評価していただいた結果であると思われる。 ▼「学校に行くのは楽しいですか」という質問項目に対して、否定的な回答をした生徒が約16%いることから、今後は、すべての子どもたちが楽しいと思える学校づくりを進めていく必要がある。また、すべての生徒が学びの必然性を感じ、興味・関心や学びに向かう力を高められる授業づくりが課題である。		◎すべての生徒が自尊感情を高め、学校生活における満足度だけでなく、学びに向かう力を高め、将来の夢や目標に向かって自分で道を拓いていけるよう、生徒が自ら学びたいと思えるワクワクする授業づくりや自分のよさや得意を見出すキャリア教育の充実に一層力を入れる。 ◎生徒一人ひとりの自立・自律を支えるため、様々な方との出会いや豊かな体験活動を充実させる。 ◎今後も子どもたちの良さを認め、子どもに寄り添いながら発達を支援していく。
※	児童生徒アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小數第2位まで記入)	2.68				
※	保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小數第2位まで記入)	2.71				